

貨があるので、城を受け取る際には見張り所に待機する者が財貨を受け取り、役人だけが城の中へ入り、帳簿にて財貨を確認した上で譲渡し、そして城も明け渡そう。もつとも当方も城内には役人だけを残し、他の軍勢は城外へ撤退させよう」
攻め手からも「もつともなことである。そのように事を進めたい」という旨の返答があった。

そのような約束が交わされたので、勘兵衛は郡山の籠城兵を大安寺だいちあんの旧境内地へ撤退させておいた。この場所は郡山から二・二キロメートルほど北東に位置し、そこに勘兵衛方の兵士は待機した。「間違はなく城を明け渡し、家臣が全て残らず城を出るまではどこへも退去してはならない」と、勘兵衛は彼らに厳重に命じ、その場へ留まらせておいた。一方で勘兵衛は軍略をめぐらし、自身の屋敷に鎧武者よろい百人ほど、その他足軽二百人ほどを棒を持たせて隠しておいた。

さて、攻め手は町の出入口に待機し、見張り所に財貨を受け取る者がやって来た。そこで門の鍵を渡したところ、彼らは蔵を開け、雑兵が本丸へ押し入り、財貨を略奪して逃げていった。勘兵衛は、このようなことは見過ごすことのできない言語道断の行為であるといって、自身の屋敷に隠しておいた部隊を出動させ、門の鍵を取り返し、敵を追い出して門を閉め、敵の頭領へ使者を送った。勘兵衛は「そちらが約束に背き、このような事態に至った。この上は城を明け渡すことはできない」といい、大安寺まで撤退させていた兵士を呼び戻した。勘兵衛方はほとんど決戦におよぶ態勢であった。一方、攻め手の頭領である藤堂高虎は和議を持ちかけた。高虎は、「このような有り様は少しも大将である自分の知るところではなかった。何はともあれ、そちらの望み通りの方法で受け取るので、城を明け渡してほしい」と持ちかけてきた。しかし勘兵衛は納得せず、最早攻撃を仕掛ける様子であったので、何度も話し合いがなされた。

その間に、南都興福寺の大乗院だいじょういんの仲裁により和睦が成立した。それならば先の約束通り間違いないようにと念を押しした上で、城の受け渡しが決まり、財貨の受け渡しが帳面の確認をもって混乱なく終了し、そして城は明け渡された。

その時、勘兵衛は終始一貫して頭領の立場にいた。一人で